

日毎に春らしさを増す今日この頃、いかがお過ごしでしょうか。『NEWS LETTER』No.2
をお届けします。

＜文化財等救済委員会現地本部、4月から尼崎市立地域研究史料館内に移転！！＞

3月まで神戸市西区の芸術工科大学に設置されていた文化財等救済委員会現地本部
が、4月から尼崎市立地域研究史料館内に移転、4月一杯レスキューを継続する予定
です。史料ネットとの連携もますます強化され、共同して救済活動にあたっています。

＜各地の被災史料救済活動、大きく進展！！＞

No.1発行以後、史料ネットでは5件のレスキューを実施しました。中には新史料の発
見という成果もありました。現在、2件のレスキュー予定があり、出動回数はますます
増えそうです。一部の地域では、自治体や地元の研究者と連携した調査活動も始めまし
たが、事態が明らかになるにつれて「手遅れ」（破棄や売却など）のケースも目立って
きました。後に残念な思いをすることのないよう、他の地域でも積極的なアプローチが
必要です。各地の主な救済活動の状況は以下の通りです。

◇明石市

明石市江井ヶ島の元大庄屋・田中源左衛門家から、近世文書5箱と近代の経営帳簿、
典籍類・茶器・什器・陶磁器・酒造道具など蔵一杯の歴史資料救出行動を継続中。この
レスキューは、明石市文化博物館の要請により文化財等救済委員会が行なったもので、
史料ネットのボランティアも現在までに5日間にわたって延べ38人が参加しました。

◇神戸市

地元の歴史研究団体である神戸史学会が、会員に呼びかけて、史料ネットとも協力し
て被災文化財の調査・救済活動を開始しました。さらに史料ネットでは、神戸大学文学
部内に神戸市域の救済行動のセンターを4月10日から開設予定です。

◇西宮市

市文化財課と史料ネットが共同で、3月27日に市内の元大庄屋家文書1軒・庄屋家
文書1軒を救済、さらに1軒のレスキュー活動が予定されています。

救済されたうちの1軒は、有名な大庄屋・岡本俊二家文書。市指定の近世文書はすで
に被災後いち早く郷土資料館に搬入されていましたが、家屋解体に史料ネットメンバー
が立ち合った際、近代の村関係文書が偶然発見され救出されたものです（新聞記事参照）。

◇尼崎市

尼崎市立地域研究史料館では地震後、市内文書所蔵家や寺院・神社計341軒をリス
トアップし、電話連絡や現地調査・文書発送などにより被災状況を調査中。この結果、
現在までに近世近代の村方文書や典籍類、近代の公害反対運動資料など計8件、3,000点
以上を緊急引き取り。さらに家屋撤去もしくは家財整理待ちが10軒という状況です。
寺院・神社からは、文化財の保全に関する相談も数件寄せられています。

◇伊丹市

施設自体も被災した伊丹市立博物館では、3月にはいって各方面の協力を得て被災史料救済体制を確立、すでに15件あまりの文書や民具を収集もしくは調査しています。博物館の被災史料調査やレスキュー活動には、郷土史家や近隣の自治体史編纂室職員、史料ネットや文化財等救援委員会などが参加・協力しています。

◇宝塚市

3月24日、文化財等救援委員会と史料ネット共同で、妙玄寺所蔵の近世文書・掛軸・仏具等を救出。あわせて掛軸の簡単な調査を行い目録作成。

◇箕面市

箕面市史編さん所では、市内の撤去対象家屋すべてに史料救済の呼びかけ文書を発送、さらに広報誌上でも救済を呼びかけ、数件を引き取っています。

<兵庫県・神戸市・芦屋市に要望書提出>

史料ネットでは、被災資料の救出活動を行うだけでなく、被災地の市民や自治体など関係機関に歴史資料救済保全の重要性を訴えてきました。3月に入り、各自治体の復興計画が発表される中で、復興や再開発に伴う埋蔵文化財破壊の危険という問題が浮上してきました。阪神大震災対策歴史学会連絡会では、考古学関係者・自治体担当者との意見を聞いたうえで、復興都市計画の立案に際して①地域住民の十分な合意と意向のもとに歴史と文化遺産を大切にしたい街づくりを行なうこと②歴史・文化遺産等について関連する諸学界の意見を聴取する場を設けることなどを内容とする要望書を、3月16日神戸市、3月28日兵庫県、同日芦屋市にそれぞれ提出しました（別紙要望書及び新聞記事参照）。

<5・6 歴史と文化をいかす街づくりシンポジウムのお知らせ>

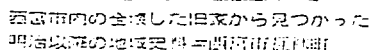
また、復興計画と歴史・文化遺産の問題については、自治体へ要望するだけでなく、史料ネットとしても、5月6日午後1時から尼崎市総合文化センターにおいて「歴史と文化をいかす街づくりシンポジウム」を開催し、関係する学界や団体と意見交換を行うことにしました。詳しい要項は別紙の通りですが、歴史学・埋蔵文化財・環境考古学・建築史・都市計画・NGO文化情報部などの分野からの報告を予定しています。参加希望者は、往復ハガキにて実行委員会事務局（史料ネット）まで申し込んで下さい（別紙要項参照）。

<会計報告ー3月末現在>

募金へのご協力ありがとうございます。No.1で報告したように、史料ネットの活動は、すべて募金によってまかなわれており、主にボランティア保険加入料、ボランティアの交通費補助、消耗品などに当てています。3月末現在の募金は、全国から150万円を越える額が寄せられていますが、常駐やレスキューの経費などの支出も80万を越えています。

詳しくは次号で報告する予定です。

第1級の文書史料発見



村落史探る500点

明治初期
大戦直後

水利規約など記述

三三三に、明治初間から太平に戦争直後までの文書約
五百冊が見つかった。文書の中には、時の政治に関
する契約書などが含まれ、次第にその歴史関係資料
の保存政策を模つてゐる（歴史資料保存情報ネット
ワーク）（代表：興行弘治戸大助教院）は、近代の
地域社会の圧り方を解明できる第一級の史料群とし
て調査を進めていく。

பெரிய

震災で破壊は全壊、江田
明の古文書は市の郷土資料館に運ばれた。しかし、取
引場しが決まった監理や納
税などには、未調査の文書
があると同ネットワークが
聞き、今回の発見につなが

た

岡市瓦葺町の不動産業岡本紀士(三十八)を以て発見された岡本家住宅跡時代、瓦葺地区の町の奥まである瓦葺組の土蔵を得る一戸あり、約三箇五十年前に建

突降は、所単位にも新たな行政制度が浸透し始めた。明治七年、公文書などを原資するために瓦所組の一戸が新組（全戸用瓦所）に

うまつたす。一や、大正
四年に撰著された『大正四年の
資金や水穀の運轉關係』などを
定めた『町規約』、『泰りの町
政』を記した『出納帳』、終戦直
後の配給物資一覽表などが
あった。一つの町里単位で、
時代の変遷に沿った史料が
完全な形で残っているのは、
まれで、明治以降の村落研
究を解明する上で重要な史
料になるという。

同ネットワークの藤田明
良・田南大経済行動講師は
「二〇一五年に研究が進んでい
る箇本で、江戸時代の史料
と合わせると、非常に貴重な
ものになる。また、史料
に、明治以降の文書は『町政』
としての認識が低く、貴重史料
でがれきりごみと捨てられ
て、アクセスが難しいという、
保全を呼び掛けている。

同ネットワークの連絡先
は、福岡市地域研究史料部
096・4802・522・16。

同ホットワークの稼働時間

உதவி - உதவி - உதவி - உதவி - உதவி -

1995年3月16日

神戸市長世山幸俊殿

阪神大震災対策歴史学会連絡会

代表幹事 奥村 弘



構成団体

大阪歴史学会
日本史研究会
大阪歴史科学協議会
京都民科歴史部会

都市計画の事業化にあたって歴史・文化遺産に配慮を求める要望書

3月14日、神戸市都市計画審議会において被災市街地の再開発・土地区画整理事業を始めとする計画案が審議され、これを承認する答申が市長宛に出されました。これにともない、本日16日の兵庫県都市計画地方審議会の答申を経て、都市復興計画事業が具体化されていくことと考えます。

今回の震災は神戸に未曾有の被害をもたらしました。瞬く間に幾多の命が奪われ、生活の礎が破壊されました。これ以上の悲しみはありません。また震災前の神戸には、数多くの遺跡・近代以降の歴史的建築物、神戸らしい伝統的な町並みがありましたが、今では、そのほとんどが無惨な姿に変わり果ててしまいました。

この地域の人々の生活とその環境は、繰り返し襲う地震や風水害などと闘い、さらには治承寿永の内乱・南北朝の内乱・第二次世界大戦など筆舌に尽くしがたい幾多の悲しみを乗り越え、先人が築き上げてきたものにほかなりません。生き残った私たちは、この事態にあたって、こうした先人の労苦を顧み、またそれを心の糧とすることでこそ、明日に向かって生きる力をもちえるのではないのでしょうか。また、先人が乗り越えてきた歴史そのものを未来へと受け継いでゆくことが、生き残った私たちの責務ではないのでしょうか。

私たちは、新たな神戸を創造するにあたり、広範な地域住民の合意のもとに、先人が築いてきた歴史と文化の遺産を大切にしたい街づくりを目指すべきであると考えます。そのために必要な措置を講じていただきたく、さしあたり以下の点を要望いたします。

- 一、都市復興事業計画の立案にあたっては、地域住民の十分な合意と意向のもとに、歴史と文化の遺産を大切にしたい街づくりをおこなうよう必要な措置を講じること。
- 一、都市復興事業計画の立案に際しては、歴史・文化遺産等について、関連する諸学界の意見を聴取する場を設けること。
- 一、防災指令3号を段階的に解除し、歴史・文化財関係職員を本来の職場に配置して、歴史と文化の遺産を大切にしたい都市復興計画の事業化を円滑に進めること。

※ 同趣旨の要望書を兵庫県・芦屋市に3月28日、〒提出しています。

95. 3. 18

神 戸
(神戸、阪神版)

文化財配慮の復興を

歴史学会
運格会
神戸市に要望書提出

阪神大震災対策歴史学会連
結会（代表幹事・奥村弘神
宮大文学部教授）はこのほど
神戸市の復興部所管計画に、
被災地の文化財や歴史資料
の保護活動を通じている
歴史文化財などへの配慮を
盛り込むよう求める要望書
を提出した。

同連結会によると、神戸
の旧市街地は歴史文化財の
調査が遅れているが、古代
至徳城内で、多くの歴史

遺跡に加え、三重、長田等には福原京や兵衛津として栄えた中世の街並みの遺構が広い範囲で残されているのは事実。西開発などの指定地域内にも、多くの遺跡が出土する可能性が高いといふ。

このため同巡経会は、復興事業計画立案の際、住民と合意の上、諸学界の意見

文化遺産配慮を
都市計画で
研究者要望

歴史研究會であつてくる阪
神大震災対策歴史学会退却
會（代表幹事川島村弘・沖
戸大助教茂）は十六日、都
市計画事業を進めるにあた
つて、退却はこの文化遺産
に破壊するよう求める要請
書を沖戸市に提出した。
同退却會は大阪歴史学会
や日本史研究會など四団体
で二月に結成。これまで沖
戸市や伊丹市などの被災地
で、破壊した建物から歴史
資料を運び出すなどの活動
をしてきた。
要請書では、都市計画事
業にあつて、地域住民の意
見を十分に尊重し、意図のものとに

歴史と文化の関係を大切にした所づくりに待つが、過去の立派に際しては開闢するの爲め意見を出し出す。歴史と文化関係は、過去の立派の場所を直視する——このことを求めている。

同建協会は、東京池の歴史資料に関する情報提供に努め、旅順などを過けける

を聞く湯を設け、歴史と文化遺産選を大切にした街づくりを要領するごとき、市の防災指令3号を段階的に解除し、文化財関係職員員の輩が溜り求められている。

同連絡金は、歴史・資料保全情報ネットワーク（03-00006-4083・030246）を開設しており、市民が匿名でにされた資料の回収、保存を受け付けている。

[illegible][illegible]

文化にも配慮を

復興
對策委員會
縣、芦屋市に要望

大阪歴史学会など四団体
でつくる阪神大震災対策歴
史学会連絡会（代表幹事、
奥村弘・神戸大助教授）は
二十八日、被災地での復興
事業について、歴史・文化
遺産に配慮した計画を作成
するよう県と彦根市に要請
した。

被災地では倒壊した建物
に貴重な文獻・資料が埋も
れたままがれきと共に処分
される恐れがあり、神戸・

遺跡調査も出来ないまま町づくりが行われる危険性もあるとして▽保存に向けた体制作り▽歴史を大切にしたい町づくり▽具体的な計画立案時の学会からの意見聴取——を求めている。

明治以降の建築物や道路・北溪町の新興邸も増えつつある。歴史の町並みを生かした町づくりを目指したい」と語った。

1995年(平成7年)3月28日(火曜日)

文化 部 (2/2)



取り壊し前の土蔵で調査する
NGOのメンバー(西淡町で)

震災で埋もれる 郷土史料残そう

文化財にも大きな被害を与えた阪神大震災。倒壊家屋の解体工事が進むにつれ、民家に残った古文書などもカレキと一掃に捨てられてしまう可能性が強くなっている。こうした資料は次代に、庶民の歴史を伝えるために貴重なもので、ボランティア団体「阪神大震災地元NGO救援連絡会文化情報部」などが、その保存のために活動している。

この団体の代表は、雙南台大学講師の坂本眞氏(文化財修復保存)。文化財の修復保存などが専門の大学、博物館の研究者十人と学生ら三十人が参加する。発足は地震のほぼ半月後だったが、これまで被災した神戸市内の教会やエジプト研究家宅などで、洗剤記録、エジプトの文庫やスライドなどを回収。旧家が

(手帳)

の古文書や明治時代の人力車、大正期の通帳簿、日記帳などを取り出し、保存できるように援助した。阪本氏は「学校や民家などに残る郷土史料は、行政によって文化財の指定を受けていないものがほとんどで、早く扱われる傾向があり、修復や保存に財政的援助もなく捨てられやすい。でもそこには、庶民の歴史があり、貴重な文化遺産であることは揺るぎない文化財と同じです。過去のこうした、財庫を残していくことは、復興の際に人々の精神的な支えとなるのではないのでしょうか」という。

メンバーの一人、国立歴史民俗博物館助教授の神庭昭雄氏(保存担当)は「六六年のイタリヤ・フィレンツェ水害では、行政が被災直後に文化財救済の窓口をつくり、専門家を援助して多くの古文書を修復しました。それと比べると、日本は遅れています。災害時に文化財をどうするかというマニュアルづくりと、少しでも早く被災調査が行える体制づくりが必要でしょうね」と指摘する。

このほか、大阪歴史学会協議会、日本史研究会など阪神の四つの歴史学会が兵庫県西淡町地蔵研究史料館内に「歴史資料保全情報ネットワーク」を開設。古文書だけでなく、戦後復興の新聞や地域の出版物まで対象を広げ、保全の相談、援助などを行っている。

復興の中で、芽生えてきた身近な資料をも守ろうという動き。それは震災の傷跡を次代に伝え、失われる町づくりを目指す上にもつながるはずだ。

ボランティア団体や学会が修復活動

〔阪神淡路大震災関連〕「歴史と文化をいかに街づくりシンポジウム」

今回の震災で、歴史・文化遺産はどのような被害をこうむったのか。復興計画の中で歴史・文化遺産の保存・復旧はどのように位置づけられるべきなのか。被災した歴史・文化遺産の調査や救出を行ってきた、あるいは被害の特徴や復興計画について発言を行ってきた学界・団体から、それぞれ報告を行ないます。

そのうえで、住民・自治体が人間中心の街づくりを目指すとき、歴史・文化にかかわる学界・団体はどのような協力ができるのか。会場に集まった皆さんとも、率直に意見を交えながら、模索するための手がかりをつかむことをめざします。

日時：5月6日（土） 13:00～17:00

場所：尼崎市総合文化センター 7階 第2会議室（100名収容）

内容：① 各分野からの報告（約2時間）

奥村 弘・神戸大学助教授	（史料補）
萩田 賢・関西大学教授	（歴史学）
和田晴吾・立命館大学教授	（埋蔵文化財）
高橋 孝・立命館大学助教授	（環境考古学）
足立裕司・神戸大学助教授	（建築史）
塩崎賢明・神戸大学助教授	（都市計画）
坂本 勇・東京修復保存センター	（NGO文化情報部）

② コメントとディスカッション（約1時間半）

（コメント） 外国の被災都市復興
景観保存運動の立場から
住民復興組織の代表 等

主催：歴史シンポ実行委員会

（阪神大震災対策歴史学会連絡会、埋文関係救済連絡会議など）

事務局：歴史資料保全情報ネットワーク（史料ネット）

参加希望者は、往復ハガキに「歴史シンポ参加希望」と明記のうえ、①氏名 ②〒 住所 ③電話番号 ④所属学会・団体等（ない人は「一般」と書いて下さい）を記入して、下記まで申し込んでください。（返信ハガキにも必ず、〒 住所、氏名を記入のこと）

〒660 尼崎市昭和通2-7-16 尼崎市立地域研究史料館 気付
歴史資料保全情報ネットワーク
（電話）06-482-5246 （史料館内）
（fax）06-482-5244 （同）

史料ネット NEWS LETTER No.2 1995.4.7（金）

編集・発行 歴史資料保全情報ネットワーク

尼崎市昭和通2-7-16 尼崎市立地域研究史料館内

TEL 06-482-5246 FAX 482-5244

史料救済募金 郵便振替

名義 阪神大震災対策歴史学会連絡会／口座番号 01090-7-23009